

〔特集論文〕

ロシアを笑うインターネットミーム (ウクライナのインターネットで)

ペトリシェヴァ・ニーナ

1) はじめに

2022年2月24日にロシアがウクライナに侵攻を始めたことは、ウクライナ社会にとって大きなトラウマになった。それには理由がいくつかある。2014年にロシアがクリミア半島を編入してからドンバスの一部の地方にも侵攻して、8年間も経っていた。クリミア半島の返還は外交努力によって長年にわたるだろうとウクライナ国民は仕方なく受け入れて、ドンバスでの紛争はほぼ凍結された。ウクライナが国の経済発展やEUへの同盟に集中し、ロシアとの関係性を国家レベルでは必要最低限にした。その関係性は主にEUを貫いて走るガスパイプラインに関してであった。一方、ロシアは複数回にわたってウクライナの国境周辺で軍事演習を行った。そのこともあって、侵攻直前の軍事演習でもウクライナでは緊張感が高まらなかった。そして、これらの理由があっても、40代以上のウクライナ人はソ連時代を覚えていて、特にロシア帝国時代から一緒だった東ウクライナに住んでいた市民の中にはロシア連邦に好意を持つ人が多かった。

2) インターネットミームとその分析

2-1) 定義と構造

そんなある程度落ちついた生活の中で、2022年2月24日の朝4時に東ウクライナをはじめ全土が空襲にあった。防空装置も無く、人々はどうすればいいか分からない状態で最初の犠牲者が出た。そして、ロシア軍は地上でも本格的な侵攻を始めた。大勢のウクライナ人男性は軍に登録するために数日間、並んだ。政府はパスポートに登録するだけでキエフ一般市民に自動小銃を配り始めた。そのようなショックと反抗の中で、ウクライナのインターネットでロシア軍を笑うインターネットミームが出始めた。ストレス緩和にもなり、ロシア軍に対する軽蔑を表す手段としてウィルスのように普及した。インターネットミームをメリアム・ウェブスター辞書(Merriam-Webster, n.d.)は以下のように定義している：

Internet memes - amusing or interesting item (such as a captioned picture or video) or genre of items that is spread widely online especially through social media

インターネットミームとは、オンラインで特にSNSで広く普及してる滑稽で面白いアイテム（例えば、キャプションの付いた絵ないし写真かビデオ）¹

本研究では、インターネットミームをキャプションの付いた写真と絵に限定する。

成功した、つまり人気を集めたインターネットミームは大人気になるだけでなく、生き物と似たような進化をする。リチャード・ドーキンス(1976, p. 193)は『利己的な遺伝子』でインターネットミームは文化を推進させると主張している：

Memes (discrete units of knowledge, gossip, jokes and so on) are to culture what genes are to life. Just as biological evolution is driven by the survival of

the fittest genes in the gene pool, cultural evolution may be driven by the most successful *memes*.

ミーム(個別な知識、噂、冗談などの)アイテムは文化にとって遺伝子が生命にとってと同じ役割をしている。遺伝子プールに一番適している遺伝子の生存が生物進化の推進であると同様に文化推進が一番成功したミームによって発展する。

インターネットミームの発展は二通りになると考えられる。その一つ目は、単独のインターネットミームが共通知識により大きく頼って、そのアイデアが次第に抽象的になっていくことである。発展の二つ目は、二つのインターネットミームの協力である。つまり、あるミームが別のミームを思い起こさせ、互いの新しい解釈に影響し合うことである。インターネットミームの相互作用についてミシェル・コッシャ(2013)が以下の通りに説明している：

memes influence each other, the influence can take place in two ways: by means of competition and by means of collaboration. Competition is defined as a negative influence of one meme over another: the success in terms of ratings of one meme provokes lower ratings in another meme. Collaboration is the opposite effect.

ミームは互いに影響与え、競争による影響と協力による影響の二通りになりうる。競争は他のミームに対する良くない影響として定義されてもいいだろう。すなわち、ランキングにおけるあるミームの成功は他のミームの低いランキングの原因になる。協力は正反対の効果である。

本研究では、三番目のインターネットミームの共存、つまり、結合もありうることを証明する。

本研究の研究対象は、事実に基づいている、主に文字の入っている動かない画像である。そのインターネットミームの特徴は三つある。一つ目は複数感覚(つまり、画像、言葉、感情)を働かせることで、二つ目は生産力を持つ(つまり、進化ができる)こと、三つ目は(特に事実に基づいているため)インパクトが強いこと(ロシア軍を笑って、ウクライナ軍/ウ

クライナ人を鼓舞する)である。図1でインターネットミームの進化のイメージスキーマを示す。



図1

インターネットミームが成り立つためには、それを作る・見る・シェアする人々がまず文化・歴史・ミームが描いている出来事について共通知識を持つことが大前提である。次に、テキストを読みたくなるほど画像が関心を喚起しなければならない。しかし、起源となるインターネットミームを普及させるためにはメッセージを伝えるテキストが一番重要である。起源となるインターネットミームが定着したところでシェアしてもらう決め手になるのが画像の面白さである。インターネットミームの進化の最終段階では共通知識が一番重要な要素になる。初期段階と違って、その意識は文化・歴史・出来事だけではなく、そのテーマに関する他のインターネットミームも含む。ここで注意しておきたいのは、自然進化の過程と同様に、インターネットミームの進化はどちらかという段階的というよりも連続性のある変化過程(クライン)をたどる。

2-2) 具体例の分析

ロシアが勃発させた戦争をウクライナ市民が生き抜くために励ましになるインターネットミームのいくつかを分析する。侵攻が始まってから抵抗したのは正式なウクライナ軍だけではなく、一般市民もロシア軍に抵抗した。その当時、普通の人々(農家、ロマ²⁾、チンピラ)が装甲兵員輸送車

や戦車を奪ったことが複数回あった。写真1はその出来事の一つを描いている。



写真 1

この出来事が広く報道されて、すぐに最初のインターネットミームが登場した。図2を見ると、共通意識は戦争、抵抗、戦車等が奪われることからなっている。関心を起こす要素は民間人と武器を持っている犬の対処である。テキストは少し大げさに出来事を語っている。

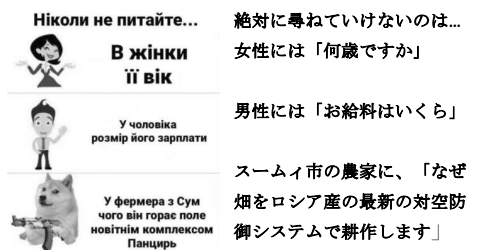


図 2

以下の図3においても前提になっているのは、戦車等が盗まれたこと、それを盗んだ人々である。試験に困っている女の子は刺繍のあるブラウスからウクライナ人だと分かる。人々の関心を喚起させたこのミームは、ウクライナ国民全員がロシアによる侵攻に上手に抵抗しているというメッ

セージを伝えている。大砲の玉が降り注ぐ社会や空襲の中に住んでいる人々にとってとても励ましになるメッセージだ。



2050 年度センター試験 ウクライナ史

1. 2022 年の戦争で戦車を盗まなかったのは？
- a) ロマ b) チンピラ
c) 農家 d) ナーチャさん（知らない人）

図 3

図 4 は進化したインターネットミームの例である。出来事に直接言及してはいないが、「ウクライナ」というキーワードがある。そして、言及されている出来事は画像で伝えられている。ただし、このような出来事があれば、そのミームの理解が困難だろう。具体的に誰がウクライナ人であるかという推測も白黒の旗よりも共通知識からアクセスがしやすい。



図 4 こんにちは！ウクライナ人です

図5は図1のイメージスキーマの一番右側、つまり進化に進んでいるインターネットミームである。テキストと画像が目立つ度合いは、図2と比べれば画像の方が圧倒的である。上の画像が「ロマ」という概念を呼び起こし、下の方は「戦車」を呼び起こす。共通知識の中に、昔、ロマが馬(移動手段)を盗んだという偏見があると同時に、一般人がロシア軍から戦車等を盗むという知識がある。さらに、二行目も特定の出来事を喚起させる。「キエフの幽霊」というのは戦争の最初の夜にロシア空軍がキエフを攻勢した時、6機も落としたウクライナのパイロットだ。つまり、パイロットがロシアの機体を次々と空から落とすように、地上にはロマが次々と戦車をロシア軍から盗んでいる。このような多面的な共通知識が無い限り、このインターネットミームの理解は不可能である。



図5 10台目の戦車を盗んだ時/ロマの幽霊



図6 ベビー、この戦車を君に

同じように複雑な共通知識は図6の理解にも不可欠である。ギターとスタイルの鮮やかな服装がロマのアンサンブル「ロメン」の概念を喚起させ、戦車は上記の出来事を喚起させる。記載が画像よりも二次的で、共通知識の役割が一番重要である。

図7はさらに進化し、画像には戦車などの写真が無い。ウクライナ人であれば外見からロマの女の子だと分かり、戦車のことも念頭に浮かぶ。



図7 私達は他の家族と違って、戦車を盗んだ



図8

図8は進化過程の右側に極端に進んだ例で、抽象性が高く、共通知識への依存度も極めて高いと考えられる。言葉も無いため、このインターネットミームを理解するためには、「敵の何かを牽引するトラクター」、「ウクライナ」、「ロシアがウクライナへしかけた戦争」、「クレムリンの塔＝ロシア」等々の概念が一瞬で稼働されなければならない。少なくとも一番目の概念が今まで見てきた複数のインターネットミームですぐに思い浮かぶ。なおかつ、図8のインターネットミームはとても強いメッセージを送っている。クレムリンはロシア大統領の職務室があるところで、ロシアのシンボルである。ウクライナのトラクターがそれを牽引するということはウクライナの勝利を表している。

次に紹介したいのは、チョルノバイフカ村のインターネットミームである。ヘルソン州にあるこの人口1万人弱の村は一時的にロシアに占領された。地理的な条件の影響もあって、ロシア軍がそこにだけ軍用飛行場を作

ることができた。そこには主にヘリコプター、中型戦闘機、燃料と弾薬があった。ウクライナ軍はその軍用飛行場を少なくとも30回以上攻撃した。それでも、他のところがより危ないか、たどりにくいか、理由は不明であるが、ウクライナはこの地方を取り戻すまでロシア軍はその軍用飛行場を作り直していた。最初の6回、この軍用飛行場が攻撃されてから、図9のようなインターネットミームが登場した。ロシアの旗があって、回転するプラットフォームに「チョルノバイフカ」と書かれ、「第1シリーズ」という記載は「この続きはまた今度」を意味している。つまり、ウクライナ軍が攻撃を続けるということだ。そして、「第6話」は6回目を意味している。



図9 チョルノバイフカ第1シリーズ6話

図9においてはテキストが大きい意味合いを持ち、画像が出来事の記憶を引き起こしている。そして、図10と図11においても、テキストが一番重要である。空、つまり、空襲を思い起こす画像は二次的である。



図 10

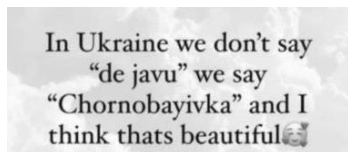


図 11

これらと比べて、図 12 においては画像がはるかに物語っている。最上級の司令官であるプーチンが、命令に従うしかない部下にチョルノバイフカへ行くように命じている。その危険性がメドヴェージェフの顔からうかがえる。



図 12 あのね、そのチョルノバイフカに査察に行ってきた

図 13 はチョルノバイフカや Google Maps についての知識が必要である。ただ、ウクライナ人にとって、そのメッセージは「ロシア軍がどこにいても、つぶされる」ということである。

図 13 と同様に、図 14 を理解するには、より広いコンテキストの共通知識が必要である。ウクライナに侵攻したロシアの戦車や装甲兵員輸送車のドライバーは、何らかの理由で、GPS 等システムを利用せずに 1980 年代にソ連で出版された地図を持って進んでいたい。出版から 40 年も経ち、2014 年以來たくさんの市町村の名前が変わったから、その地図はあ



図 13 チョルノバイフカ



図 14 チョルノバイフカ

まり役に立たなかった。そのため、地図担当者は町の案内板に従って移動していたらしい。わりとすぐにそれがウクライナ人にも伝わったため、それらの案内板をウクライナ当局はペンキで濃く塗ったり、“fuck off”と書いたりした。

図 14 はその実際の例で、インターネットミームになった。このテキストはとても単純だ。画像のみ判断したら、写真は大きな道で撮影されたにすぎない。ロシアが戦争をしかけて、ウクライナ語の案内版を見る人にとってロシア軍を騙す試みであって、ミームになるほどのインパクトは無い。上記の二つの知識を持ち、さらにたくさんのミームのおかげで「チョルノバイフカ＝繰り返されるロシア軍機の撃滅」が意識に根付いた人々の間にだけはウィルス性を持つインターネットミームになった。

最後に触れたいのは、『モスクワ』ミサイル巡洋艦についてのインターネットミームである。この例においてはミームの協力も見ることができ。2022 年 2 月 24 日に『モスクワ』ミサイル巡洋艦を含む数台のロシアの軍艦が面積 0.17 平方キロメートルのズミイヌイ島（文字どりに訳すと「蛇」の島）に近づいた。巡洋艦から 13 人のウクライナ国境警備隊に対して降伏が要求された。従わないと島がミサイルなどで攻撃されるとのことだった。死と直面して、ロシア語を母語にするウクライナ人の答えが「Русский военный корабль, иди на хуй!」（「ロシアの軍艦よ、くたばれ」）

だった (Sova, 2022)。島が攻撃され、ウクライナ側は、警備隊は全員死亡したと思っていた。しかし、数か月後、負傷した数人が捕虜交換でウクライナに帰った (戦争時において、ウクライナ政府は自国の軍人について死者と捕虜の人数を報道することを禁止している)。

他の国と同様に、ウクライナでは報道禁止の語彙が存在している。хуйという単語が男性器を指しており、報道禁止用語の一つである (このフレーズにおける他の言葉の意味は иди は「行け」、на は「へ」である)。ただし「ロシアの軍艦よ、くたばれ」というフレーズはウクライナ社会の中で最終的な抵抗と勇気の象徴になって、このフレーズ全体は報道禁止が解除された。それに対して、戦争の初期から『モスクワ』ミサイル巡洋艦が攻撃、無慈悲、不平等などロシアによる侵攻のシンボルの一つになった。そのため、同年4月にウクライナ軍が対艦ミサイルでこの軍艦を沈没させた時に、ウクライナ全土は大喜びだった。軍艦に復讐ができただけではなく、ウクライナ軍の大成功の一つで、名前もとても象徴的だとウクライナ人は思っている。

深い感情を引き起こす国境警備隊の抵抗とロシアの軍艦は、もちろん、すぐさまインターネットミームになっている。図15はイメージスキーマの最初の段階のインターネットミームである。ロシア語を真似するウクライナ語で *руській ваєнний карабель, іді на хуй* という報道禁止用語は曖昧にするために一文字抜きで書かれて、前置詞と名詞の間のスペースも抜かれている。ただの引用ではなくて、ミーム性のあるフレーズだという要素は動詞の書き方である。それは図15の左にあるウクライナの紋章を様式化している点である。

図16はイメージスキーマの真ん中の段階に当たるものであって、『モスクワ』ミサイル巡洋艦が沈没させられた時に作られた。ロシアの軍艦が消えるということはウクライナ人にとってはもちろん魅力的だが、このインターネットミームにはより深い意味が込められている。‘операция Z’、



図 15 ロシアの軍艦、くたばれ

英語で operation Z はロシア人がこの戦争につけた名前の一つである。ロシアの戦車などには Z, O, V という文字が書かれている。ウクライナ人にとってその意味は不明だが、残念ながら見慣れている。PC ソフトのマイクロソフトワードでコントロールキーを押しながら Z キーを押すと最後の操作がキャンセルされる。つまり、テキストが元の状態に戻る。このインターネットミームのメッセージは「ウクライナを脅すロシアの軍艦が無いことはもともとの状態であって、それがあったのはウクライナ軍が直した

間違いだった。」である。画像の特に魅力的な要素は、ロシアの軍艦が無いとてもきれいで穏やかな海である。ウクライナに攻めてきた他のものもそうなるという希望が込められている。

図 17、図 18、図 19 は、図 1 のより右側に位置する。図 17 はインターネットミームが切手になった例である。文字が無いが、メッセージは国境警備員の真ん中の指で伝えられている。このミームを理解するには、ズミイ

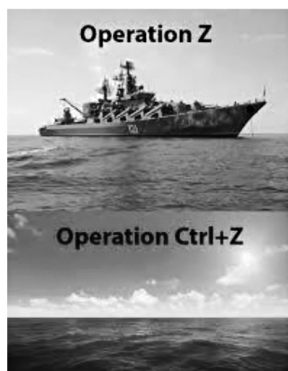


図 16

ヌイ島の出来事についての知識が不可欠である。図 18 の理解には『モスクワ』ミサイル巡洋艦の運命だけではなく、モスクワ市の特徴も知らなければならない。軍艦に乗っているのはクレムリン塔である。つまり、軍艦だけではなく、それがちなんでも名付けられたロシアの首都も燃えながら沈没するのである。興味深いのは、この二つのミームには文字が無くて、それを見る人の理解が画像と共通知識のみに基づいていることである。図 19 に記載があるが、図 17 と図 18 と同様に、抽象度が高く、共通知識が不可欠である。賃貸物件の料金は首都なら高いことがあたりまえである。丸い窓が「船」という概念を想起し、ロシアの首都の名前は「軍艦」という概念を想起し、最後に魚は「海の中に」ある。つまり、もう、本来の役割を果たすことができないことを表している。



図 17



図 18



図 19 千ドルの家賃に水道・高熱費。一ちよつと高い……だって…モスクワだもん

図 20 はインターネットミームの協力の例である。本来のハリーポッターのミームと「ロシアの軍艦よ、くたばれ」という他のミームフレーズと一緒に使われるだけではない。ハリーポッターという登場人物は蛇の言葉を知っているらしい。ウクライナの国境警備隊が守っていた島もウクライナ語とロシア語では「蛇の」という名前を持つ。つまり、ハリーが「蛇の島」で言われたフレーズを使っている。

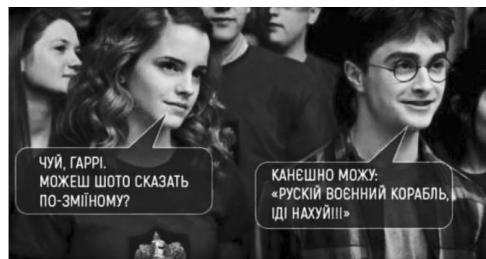


図 20 ハリー、蛇語で何か言えるか？—もちろん、
いえる。ロシアの軍艦よ、くたばれ。

最後に『モスクワ』ミサイル巡洋艦に関する最新のインターネットミームを紹介したい。2024 年 1 月 14 日にウクライナ軍がロシア軍の A-50 という早期警戒管制機をアゾフ海に撃ち落とした。ロシア軍にこのような飛行機は数台しかなく、さまざまな機能を持つものである。大型レーダーを搭載し、敵軍・友軍の航空機などの空中目標等を探知・追跡し、なおかつ友軍への航空交通管制や指揮・統制を行う機体である。それを撃ち落とされたロシアはすぐに新しいものを造れないし、ウクライナの町を攻撃する無人機の誘導も困難になっている。ウクライナにとって一定の成功であって、軍だけではなく一般市民も大喜びだった。ロシア軍の飛行機が落とされると、戦争を支持するロシア人が「兄弟よ、永遠の飛行を！」と書いている。図 21 はそれを笑う例である。図 22 において、黒海に沈没した『モ

スクワ』とは違う海に撃墜された A-50 は海底でロシアの軍艦にウクライナ語の文字で記載された言い方で女の子に声をかける。このミームを見た著者の小さな子供が「飛行機は泳がない！なぜ船が海の中にあるの？」と訳の分からない顔で尋ねた。専門家ではなくても、一般のウクライナ人にとって、こんな質問は浮かばない。ウクライナ軍はすでに複数のロシア軍艦を沈没させているが、たくさんのインターネットミームのおかげで、大型軍艦とは『モスクワ』のことであるという連想が強い。海に沈む飛行機なら A-50 だという知識はミームではなくて、関心の高い情報からきている。海に沈む飛行機のミームと海の底にある『モスクワ』のミームが図 21 で結合した。海の底で軍艦と飛行機が出会うという画像は、共通知識を持つウクライナ人にとっては、攻撃するロシア軍がいくら強くても損傷することを意味している。自国の海軍を全く持たず、空軍もソ連時代からのものであってもウクライナ軍はしっかりと戦っているというメッセージは、ウクライナ国民の強い励ましになる。



図 21 兄弟よ、永遠の航海を！



図 22 おは！お一人ですか？

3) おわりに

本研究では、インターネットミームとその進化を分析した。インターネットミームの定義を挙げて、その進化を説明した。著者はインターネットミームとその進化のイメージスキーマを提案した。進化は連続性のある変化過程であって、進めば進むほど抽象化する。インターネットミームは人の認知において複数の領域を起動させ、共通知識、画像、テキストから成り立つ。成功する、つまり、普及するミームが強いメッセージを送る。

初期段階においてはテキストが大きい役割を果たす。次第に画像、つまり目立つことが重要になり、最終段階では共通知識がインターネットミームの理解度を決める。インターネットミームが互いに影響を与え、協力するミームはより普及する。現実世界の出来事が前の出来事を描くミームに加わってインターネットミームの協力となり、もう一つの進化過程の推進になる。図 21 と図 22 に見られる現象は結合であると言える。海の底にある『モスクワ』軍艦のミームと海に沈む A-50 のミームは「海、落とされた」という共通概念に基づいて結合し、両ミームの発展に貢献している。ロシアがウクライナへしかけた戦争においてインターネットミームはウクライナ人の励ましになり、希望を持続けることを手助けしている。

注

- 1 英語・ロシア語・ウクライナ語の和訳は著者による。
- 2 昔は「ジプシー」と呼ばれたが、近年「ジプシー」はウクライナ語で差別用語とされ、「ロマ」が適切な言葉とされる。

参考文献

Coscia, Michele. (2013, Apr 5). "Competition and Success in the Meme Pool: A Case Study on Quickmeme.com". *Center for International Development*,

- Harvard Kennedy School (copyright 2013 Association for the Advancement of Artificial Intelligence)*. <https://arxiv.org/pdf/1304.1712v1.pdf>.
- Dawkins, Richard. (1976). *The Selfish Gene*. Oxford University Press.
- Merriam-Webster. (n.d.). meme. In *Merriam-Webster.com*. <https://www.merriam-webster.com/dictionary/meme>
- Sova. (2022, Feb 25). «Русский военный корабль, иди нах...й». Битва за остров Змеиный. <https://m.youtube.com/watch?v=IMxDt-hv8AY>